

4-1		主題	時空を超えた入浴ケアの展開	
入浴ケア		副題	~利用者の精神的な安寧を求めて~	
研究期間	6ヶ月	事業所	特別養護老人ホーム ゆたか苑	
発表者：平沼 成幸（ひらぬま しげゆき）		アドバイザー：		
共同研究者：山田 卓磨（やまだ たくま） 岩崎 葉子（いわさき ようこ）				
電話	03-3959-2129	メール	yutaka-c@douen.jp	
FAX	03-3959-2149	URL	http://members.tripod.co.jp/yutakaen	

今回発表の事業所やサービスの紹介	社会福祉法人立で平成8年4月、隣接する長崎公園とともにゆたか苑は開設されました。50床の特養で現在4床のショートステイを併設しています。その他居宅介護支援事業では2名のケアマネージャーが地域で元気に活躍しています。
------------------	---

<p>《研究前の状況と課題》</p> <p>ゆたか苑では開設以来使用していた機械浴槽の老朽化に伴い平成21年度に入浴プロジェクト委員会にて浴槽購入を検討し始める。</p> <p>話し合いを重ねているうちに、果たして浴槽交換をすればいいのだろうか…という疑問にぶつかる。</p> <p>利用者様・職員に入浴に関するアンケートを実施したことで、ゆたか苑としての入浴のあり方について職員全体で考えるきっかけとなった。</p>	<p>《研究の目標と期待する成果》</p> <ul style="list-style-type: none"> • 入浴アンケートを実施し施設の方針（寄り添うケア）に沿ったケアビジョンを打ち出すことで、職員一丸となって取り組んでいけるのではないか。 • マンツーマン入浴を実施することで、利用者様の「ゆっくり入りたい」という想いにより添えるのではないか。 • フロア職員と風呂職員を分担させることで「双方を見なくては」という切迫感を少しでも軽減するのではないか。 • 同性と一緒に入浴をすることで、安心感や認知症の周辺症状などの緩和につながるのではないか。
---	---

《具体的な取り組みの内容》

- アンケートの結果をプレゼンテーション形式にてOJTを実施。
- 待たせない入浴ケアとしてマンツーマン入浴を実施
- 入浴を介助としてではなく、生活の一部と捉え、同性同士で一緒に入浴する。
- 自宅（銭湯）で入浴をしている雰囲気感じられる環境整備。
- 機械浴槽の老朽化に伴い、機械浴槽の交換扉レールの段差解消。

《取り組みの結果と評価》

- OJTでは各職種が集まり、入浴について問題意識や入浴ケアビジョンを共通認識にすることができた。
- マンツーマン入浴を通して、利用者様の個を尊重することの大切さを再認識した。
- 利用者様と一緒に入浴することで、より安心感につながり、コミュニケーションがとりにくい利用者ともうポール形成につながり周辺症状が緩和された。
- 一緒に入浴をしたが「やっぱり一人でゆっくり入りたい」とい利用者の気持ちを知る事が出来た。。

《まとめ》

一緒に入浴をする体験を通して利用者様の内心を理解（垣間見る）ことにつながった。また利用者様の変化が職員のモチベーションへとつながり、新たな利用者様の想い・考えを全職員が模索し共有する事が出来た。この体験を入浴だけにとどまらず、様々なケアへ波及していけるように、これからも施設全体で利用者様の想いを汲み取り新たなサービスへとつなげていけるよう努力していきたい。

《提案と発信》

「ガ-レは「無関心こそが最大の罪悪である。」と提唱していますが、それは介護現場にも当てはまると考えられます。組織は成長とともに機能分化し「見えない壁」が作られ、職員間意思疎通を図り、一致団結する事が難しくなります。職員1人1人が知恵を出し合い切磋琢磨できるような環境、仕組み作りをしなければ利用本位のサービスへの実践へと繋げられないと熟考しています。

【メモ欄】追加資料 有 無

注：参加者が自由に記入できるスペースです。空欄のまま提出下さい。